

※ 網掛けのない部分が計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考えて学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる学校づくり」

教育目標の達成を目指し、子どもを中心とした活力に満ちた明るく、楽しい学校づくりをするために、全職員が**和と協力、熱意、そして人間尊重の精神**を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組み、活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- (1) 一人一人のよさを認め、居がいのある学校・学級づくり，活力に満ちた教育活動の展開に努める。
(学級経営の充実)
- (2) 基礎・基本の確実な定着を図り，体験的な学習や問題解決的な学習をととして学ぶことの楽しさや成
就感を体得させ，自ら学び，自ら考える力の育成に努める。
(学習指導の充実)
- (3) 情操豊かな教育環境の充実と「命あるものを大切に作る心」「思いやりの心」など心豊かでたくましい
子どもの育成に努める。(まず，担任が思いやりの心を)
(豊かな心の育成)
- (4) 進んで運動に親しみ，健やかな体を育む体育指導の充実を図り，保健安全・運動の推進に努める。
(体力の向上と保健安全教育の充実)
- (5) 教職員の適材適所を図り，教育課程編成の基本方針を踏まえた本校に即した教育課程の編成と実践に
努める。
(学校運営の適正化)
- (6) 教育者としての使命感の高揚と連帯感を基に，自主的な研修をととして資質の向上に努める。
(「和」を大切にし，お互いを尊重しあう態度)
(教職員の資質の向上)
- (7) 全教職員の共通理解のもと，児童（保護者）と教職員との信頼関係を深め，日常のふれ合いをととし
て，児童指導の充実に努める。(家庭との連絡を密に)
(児童指導の充実)
- (8) 学校・家庭・地域社会の実情を踏まえ，家庭・地域との連携を密にしながら地域に開かれた学校の実
現に努める。(地域行事への参加)
(家庭・地域社会の連携及び開かれた学校)

4 今年度の重点目標（短期的視点）

- (1) 学校運営
 - ・ 心の教育を中心にすえ，居がいのある学校づくりに努める。
- (2) 児童生徒指導
 - ・ 人との関わりを大切にしながら生活し，正しく判断し行動できる児童の育成に努める。
- (3) 健康・体力
 - ・ 自分の体の状態を知り，健康・体力の向上，運動技能の習得に励む児童の育成に努める。
- (4) 学習指導
 - ・ 基礎的な知識・技能の習得を目指し「分かる」「できる」授業の工夫と授業改善を図る。

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分は今の学校が好きである」→児童の肯定的回答90%以上	①学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場の設定と教師による適切な指導・支援・助言 ②児童の学習意欲を高める授業の工夫	B	【達成状況】 A1 学校は活気があり明るくいきいきとした雰囲気である 達成 94.5 A2 教職員は誠実で熱心 達成 97.6 A3 児童は授業と生活のきまりやマナーを守り秩序があり安全な学校生活をしている 達成 児童 82.6 教職員 91.6
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	①「分かる・できる」授業づくりのために導入や指導方法を工夫する。 ②学習の進み具合を確かめながら、よさを認めた言葉かけやつまずきに応じた一人ひとりへの支援	B	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている 達成 100
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりを守って生活している」→児童の肯定的回答80%以上	① 朝会・全校集合の場や各学級において全職員共通理解のもと指導する。 ・授業の始まりの時刻 ・清掃中、清掃後の指導 ・教師が率先して早めに動く ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・次時の準備 ・廊下の歩行 ・遊び方の共通理解 ・清掃指導の徹底 ③ 必ず成果を見取り、スモールステップで目当てをアップさせるようにする。	B	【次年度の方針】 ○徐々に改善の方向に向かっているが、さらに全教職員が共通理解し、指導を徹底する。 朝会や全体集合の場で、係が話をする。 ・ 授業の始まりの時刻 ・ 清掃中、清掃後の指導 ・ 教師が率先して早めに動く ○「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・ 次時の準備 ・ 廊下の歩行 ・ 遊び方の共通理解 ・ 清掃指導の徹底
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員の肯定的回答90%以上	①学校課題を設定し、全職員共通理解のもと研究を進める。（言語活動） ②指導方法の工夫改善によるきめ細かな指導の実施	B	

学校運営の状況	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 各行事終了後や節目節目でのアンケートを実施し、次に生かされたか。→その都度実施	① 行事の終了後や節目節目でのアンケートを実施し、次回・次年度に生かす。 ② 行事終了後等タイミングをとらえて積極的に地域へ情報を発信する。	B A5教育課程の適切な実施 達成 教職員 100 保護者 94.9 地域住民 66.6 児童生徒 93.6 ・その都度実施し、可能なことはすぐに改善・実施している。 【次年度の方針】 ○積極的に地域へ情報を発信する。
	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信している」→保護者の肯定的回答80%以上	①「オープンスクール」を含め学期に2回以上学校公開を実施する。 ②より積極的に地域へ情報を発信する。 学校便り・ホームページによる情報の公開・発信 ・学校便り：月1回以上発行 ・HPの更新：月1回以上	B 【達成状況】 A6地域の学校づくり 達成 92.2 A7家庭・地域との連携・協力 達成 84.4 A8学習にふさわしい環境 ほぼ達成 教職員 83.3 保護者 77.5 A9教職員の指導力の向上 達成
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者の肯定的回答80%以上	① 外部講師と連携した授業の実施（外国語活動、クラブ活動、各種体験活動） ②「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効に活用するとともに、学校運営の充実を図る。	B B1心の教育を中心にすえた学習指導と特別活動の推進 達成 教職員 95.8 【次年度の方針】 ○さらに、清掃活動や校内緑化を推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」→保護者の肯定的回答80%以上	①清掃指導の充実（西岡タイム）と施設設備の維持管理 ②校内緑化（花はなタイム）をさらに推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	B ○一人一授業公開を行い、教職員の指導力の向上を図る。 ・道徳の校内授業公開 ・授業公開による授業改善 ・「言語活動の充実」の推進
	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている〔全〕 【数値指標】 年間2回の研究授業・授業研究会の実施と事前研究の実施	① 現職教育による研修の実施と協働体制による研究授業の実践（言語活動） ② 道徳の校内授業公開 授業公開による授業改善	A
	B1心の教育を中心にすえた学習指導と特別活動の推進	①「居がいのある学校」づくりを推進するとともに、活動の様子を積極的に公表する。（・道徳教育の推進 ・特別支援教育の推進 ・体験活動の推進・「オアシスサ」運動）	B

教育活動の状況	生活	A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童はあいさつをしている」→児童の肯定的回答90%以上	① 年間8回のあいさつ強化週間を設ける。中学校との合同あいさつ運動を実施する。 ・登校班ごとのあいさつ運動の継続 ・全校生に拡大し意識化を図る。 ・あいさつをテーマにした標語募集 ② 「あいさつ大賞」を設け、あいさつ運動の活性化を図る。 ・あいさつや言葉づかいがよくなっている児童を生かし、集団として伸ばす。 ③ 学校便り等で保護者や地域にも協力を呼びかける。	A	【達成状況】 A10 元気にあいさつ、気持ちの良い言葉づかい 課題 児童 87.5 保護者 66.6 B2 縦割り班活動 ほぼ達成 教職員 95.8 保護者 88.7 地域住民 73.3 児童 92.4 【次年度の方針】 ○登校班ごとの「あいさつ運動」来年度も継続実施してさらに意識化を図る。 ・低学年は一日のあいさつ回数目標設定 ・家庭でのあいさつを啓発「あいさつチェックシート」の活用 ・あいさつ大賞の継続 ・あいさつをテーマにした標語の募集 ○「きちんとした言葉づかい」については、徐々に改善されてきている。今後もよくなっている児童を生かし、集団として伸ばす。 ・保護者への啓発「学年懇談」での小グループの話し合い
		B2 さまざまな人々とふれあい、体験する機会を作る。	① 児童会活動・学校行事・清掃活動などにおいて、縦割り班活動を積極的に行う。 ② 積極的な活動にするために、児童の意見を生かし、活動内容を工夫する。		
	健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「自分の子どもは朝ごはんを食べ、好き嫌いなく食事をしている」→保護者の肯定的回答90%以上	① 給食便りを定期的に発行するとともに、朝食をとっていない児童に対して、一人ひとりの状況に応じた適切な個別指導を行う。 ・生活チェックシートを活用し、個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめる。 ② 「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立を意識するよう支援する。 ③ 「早寝早起き朝ごはん」を意識して生活できるように、家庭との連携を図る。 ・懇談会や各種便り等での啓発 ・「親学」に「食育」をとりいれる。	B	【達成状況】 A11 朝ごはん好き嫌いのない食事 ほぼ達成 保護者 81.0 B3 教育相談年2回・アンケート4回 達成 5月・10月 2回アンケート 7月・12月 2回相談・アンケート QU調査 【次年度の方針】 ○「親学」に食育を今後も取り入れる。 ○ランチルーム使用や身体計測後の機会をとらえて、栄養士や養護教諭が様々な啓発をする。 ○「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立を意識するよう支援する。 ○生活チェックシートを活用し、個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめる。
		B3 教育相談を年2回全員対象にして実施する。	①学期に1回実施するとともにアンケート調査も年4回実施する。		
	学習	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」→児童の肯定的回答85%以上	①学習の決まりについて学校全体で共通の取り組みを推進する。 ・授業開始時や終了時の時刻・あいさつを遵守する。 ②「聞くこと」を重視し、根気強く繰り返し指導する。約束を共通理解の上、継続指導する。 ・話し手を見る。 ・話に耳を傾ける。 ・最後まで黙って聞く。（質問は最後にする）	A	【達成状況】 A12 話をよく聞いて落ち着いて学習している ほぼ達成 教職員 83.3 児童 83.2 B4 自主的家庭学習の取組 課題 児童 77.7 保護者 51.9 【次年度の方針】 ○学習時の基本的な態度について教職員の共通理解を図る。 ・掲示物「聞き方・話し方名人」の活用 ・「聞き方チェック」を利用した自己評価

	B4 平成22年度全国学力調査・宇都宮市学習状況調査の結果をもとにした取り組み 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業で習ったことを復習するなど自主的な学習に取り組んでいる」→児童の肯定的回答80パーセント以上	①学年に応じた家庭学習の習慣化に向けた取り組み。 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」家庭学習のめやす、やり方や内容を児童や保護者に周知し、継続して支援していく。 ・自主学習への支援 学年に応じて、自主学習の内容を例示するなど手立てを講じる。 ・学級懇談等での保護者への啓発 ②豊かな感性の育成を目指した読書活動の推進。 ③ 読み聞かせだけでなく、自ら読書するような時間の確保と工夫を図る。	・朝会や集会での聞き方の指導を徹底し学習の場にかかしていく。 ○保護者への啓発を図る。 ・本校の取り組みや子どもの育ち等について、学年だよりや懇談会で保護者に伝えていく。 ○家庭学習の習慣化に向けて ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の継続 ・家庭学習の時間のめやす等について、定期的な振り返りの場の設定 ・自主学習を進めていける意欲付けを図る。 「自主学習」の内容やノートの使い方等について具体的に示す 等
本校の特色・課題等	B5 異学年集団による交流活動をとおして思いやりの心を育てる。 【数値指標】 児童アンケートの「縦割り班活動で仲良く楽しく活動できる。」→児童の肯定的な回答90%以上 B6 地域を知り地域に学ぶ活動をとおして豊かな心を育てる。 【数値指標】 教師アンケートの「地域の方々の協力による体験活動の推進」→教師の肯定的な回答90%以上	①異学年集団による交流活動（花はなタイム・遊友タイム・清掃活動・児童会集会活動等）を上級生がリーダーになって行う。 ②班対抗のゲームや活動を取り入れるなどして、活動に変化をもたらすように工夫する。 ③幼保小中連携の充実を図る。（近隣保育園や中学校との交流活動） ①出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進する。（ふるさと教室、読み語り、各種出前授業、農業体験、栽培活動、総合的な学習の時間）	【達成状況】 B5 異学年集団交流による思いやりの心 達成 児童 92.4 B6 地域協力による体験活動 達成 教職員 100 【次年度の方針】 ○出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進していく。 B

〔総合的な評価〕

・経年比較では少しずつ改善の方向に向かっており、数値指標として掲げた目標が達成できた内容が増えている。とはいえ、数値は一面の結果であり、たとえ90%の肯定的回答が得られたとしても、残りの10%をどのように支援していくかも課題である。また、保護者・児童・教職員・地域住民のとらえ方に差が生じている内容もある。これらの結果を踏まえ改善策を講じることで、今後のよりよい学校教育の推進に生かしていければよいと考える。

6 学校関係者評価

- ・学校公開日に参観して、学習態度は概ねよいと思う。特に1年生に活気があり、のびのびと学習している様子がうかがえた。
- ・とても気持ちのよい上手なあいさつをしてくれる児童がいる。そういう子がどんどん増えていくとよい。
- ・今後も学校公開日や行事等にできるだけ足を運び、学校の様子が分かるようにしたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・学校・家庭・地域がさらに連携し、人との関わりを大切にしながら生活し正しく判断・行動できる児童の育成に努める。
- ・基礎基本の確実な定着を図るため、さらなる学習態度の徹底や家庭学習の習慣化に努める。
- ・指導力の向上を目指しての一人一授業を公開し、「言語活動の充実」の推進を図る。
- ・積極的な情報発信・公開・評価を行うことにより、さらなる学校教育の改善に生かす。